

本年度定期総会が4月16（日）に開催され、役員・監事・顧問は下表の通り承認されました。

担 当	氏 名	所 属
会 長	佐 藤 譲	メイプルズ
副 会 長	山 本 俊 雄	そば工房あびさ
事務管理部会長	豊 田 直 樹	チーム“かえで”
事務管理部会	山 本 英 雄	協議会選出
〃	濱 崎 幸 夫	協議会選出
事業推進部会長	奥 田 豊 己	協議会選出
事業推進部会	鈴 木 武 雄	中国文化研究会
〃	山 口 登	古文書を読む会
〃	鈴 木 稔	平和台自治会
〃	中 村 由美子	ひばりの会
〃	五木田 陽 子	協議会選出
〃	高 橋 幸 子	つぼみ会
〃	山 本 幸 子	布佐ポピーズ
〃	永 井 ミツエ	ラ・メール
会 計	千 葉 誠	協議会選出
〃	反 頭 富 子	寿恵世志会
監 事	池 羽 慶 一	協議会選出
〃	井 上 春 美	平和台悠悠クラブ
顧 問	上 田 哲 哉	協議会選出
〃	伊 藤 勝 文	協議会選出
〃	内 藤 聰	協議会選出

令和5年度の活動にあたって

布佐南地区まちづくり協議会会長 佐藤 譲

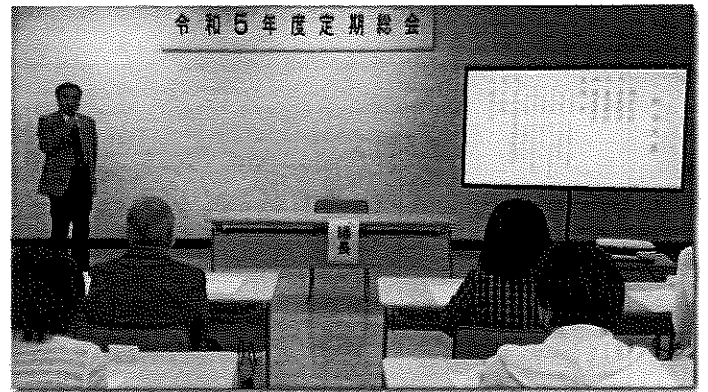
4年ぶり開催とあちこちで集会やらお祭りが行われるようになりました。布佐南地区まちづくり協議会もやっとコロナ前の規模でイベントなどができるようになりました。

布佐南近隣センターは我孫子市に11か所ある施設の中でも最も古くその歴史は37年にも及びます。

この地区は『年寄りの多いまち』などとレッテルを貼られましたが全国そう大差はありません。人口減と同じで高齢化対策にも特効薬はありません。治す薬が無いならば、何かできることがあるのでしょうか。

私たちは近隣センターのイベントなどを通じて『その何か』を提案できたらと考えています。一人でも多くの方にセンターまで足を運んでいただくことが、私たちの切なる願いです。

今後とも、より一層のご協力をお願い申し上げます。



我孫子市青木副市長の来賓ご挨拶

布佐探訪(七十三) 昭和廿年代の布佐駅周辺の風景

標記の話題につき、地元の年配者、篠崎滋夫氏、中沢富蔵氏、関谷俊江氏、石井幸子氏らの話の要約です。布佐駅界隈で、昔はあつて、今はなくなっているものを列挙しますと、▼駅構内には駅長の宿泊する官舎が附属していました。▼貨物取扱駅でした。因みに、貨物扱いが廃止されたのは昭和三十七年十月のことです。▼鉄道輸送の中継ぎをする運送会社がありました。岡田武松に数学を教えたという篠崎博文氏の子息、篠崎八十松氏は、成田線開通以降に布佐上町から駅前に進出して丸八篠崎運送店を開業。丸八倉庫を備えていました。当時、トラック輸送は未発達で、貨車輸送が主力だったのです。マツダやダイハツのオート三輪が補助的に使われていました。トラックが活躍するようになるのは、戦後の復興期からです。

▼駅前には、貨車用引込み線と、トロロコがあつて、子供たちの格好の遊び場だったようです。当時、都会の児童が大勢、布佐に縁故疎開して来ました。布佐の子供たちは、都会の子供から遊びを教わったそうです。因みに、布佐の街の賑わいの最盛期は江戸時代後期から明治時代末迄で、斉藤唯之助氏の記録によれば、明治初年から七十年後の昭和十三年迄に戸主の五二%に当たる二百九十軒が布佐から都会に移住したようです。そうした家の児童が、戦禍を避けるために疎開して来ていました。▼周りに倉庫が多かったこと、その中に漬物屋の出店と、その倉庫がありま

した。大正・昭和時代の布佐の産業の一つに漬物製造業があり、農家の主婦たちが働き手として支えていました。同業者は三軒も有り、その特色は三軒ともラッキョウ漬け屋さんでした(小山正衛門店、中沢富蔵店、江丸屋店)。三軒とも、駅の近くに倉庫と出店を持ち、樽詰め製品を貨車で、主に東京の食品問屋・納品・軍隊にも納品していました。小山店は名主、小山又左衛門の家系(元高砂屋、汽船宿)。その工場は上町にあつて、紅生姜、コンニャク製造も手掛けてました。中沢店は、元船大工中澤佐次右衛門の家系で、工場は都の現在の啓正寺会館あたりにありました。江丸屋店は江丸権六家が駅前に工場と製品倉庫を所有。漬物屋を廃業してからは、パン屋、更に化粧品小売店へと転業しました。原料のラッキョウは、地元の生産量では足りず、草深、茨城県鉾田から調達してました。鉾田は今でも関東一の生産地です。▼野菜類を担ぐ行商のおぼちゃん達であふれていた朝の一番列車の風景。

関東大震災後に、救援物資を東京下町へ届けたのがきっかけで始まった俗称「ガラス部隊」、因みに行商専用車両が廃止されたのは平成二五年のことです。▼蒸気機関車が牽引する列車。因みに「からティール」に代ったのは昭和四十年。▼駅前通りにはスーパー(石井商店(石井芳郎家)、この裏には農業倉庫が三棟あり、肥料、精米工場、パン工房等、行人向けにも商売してました。▼毛筆工房(後藤家)、武藤自転車屋、十一屋という印刷屋(沢田家)、中島青果店、洋風の建物の飲み屋さんもありました。筆工房の後藤家に関して、福島県松川生れの後藤文七氏は、東京の筆職人のもとで修業、昭和二年から布佐に移住。昭和四十年頃まで製作。毎月五百本を東京九段の平安堂に納品。昭和四十七年逝去と海老原美宣氏は記す。後藤家二代目英世さんはスーパー(魚英)と転業。布佐駅の木造旧駅舎は、解体されて平成五年四月から橋上駅舎になり、南口も出来ました。▼鳥久鶏肉屋さん(石島家)

だけは、今も変わらずに御健在です。

(梅本春一記)